

第2学年2組 道徳科学習指導案

令和8年10月6日(火) 第5校時

- 1 主題名 よいと思うことをすすんで 内容項目〔A 善悪の判断、自律、自由と責任〕
- 2 ねらい 善悪を理解していても行動できないときの葛藤について話し合うことを通して、よいと思うことを進んで行うことのすがすがしさに気づき、小さなことでもよいことを進んでしようとする意欲を高める。

教材名 「水の広場」(学研「みんなのどうとく」2年)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、学習指導要領の内容項目における、「善悪の判断、自律、自由と責任」の小学校第1学年及び第2学年の指導の観点「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」をねらいとした内容である。「善悪の判断、自律、自由と責任」とは、物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じるころに従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。

低学年の段階においては、何事にも興味・関心を示し、意欲的に活動する中で、よいことと悪いことを区別し、よいことを進んで行おうとしている。しかし、まだ集団生活に十分に慣れていないために、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。積極的に行うべきよいこと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また、よいと思ったことができた時のすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして、小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。また、身近な事例を踏まえ、人としてしてはならないことについて、一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していくことが大切である。

そこで、本主題では、善悪を理解していても行動できないときの葛藤について話し合うことを通して、よいと思うことを進んで行うことの大切さに気付かせたい。そして、小さなことでもよいことを進んでしようとする意欲を高めていく。

(2) 児童の実態

(略)

(3) 教材の特質や活用方法について

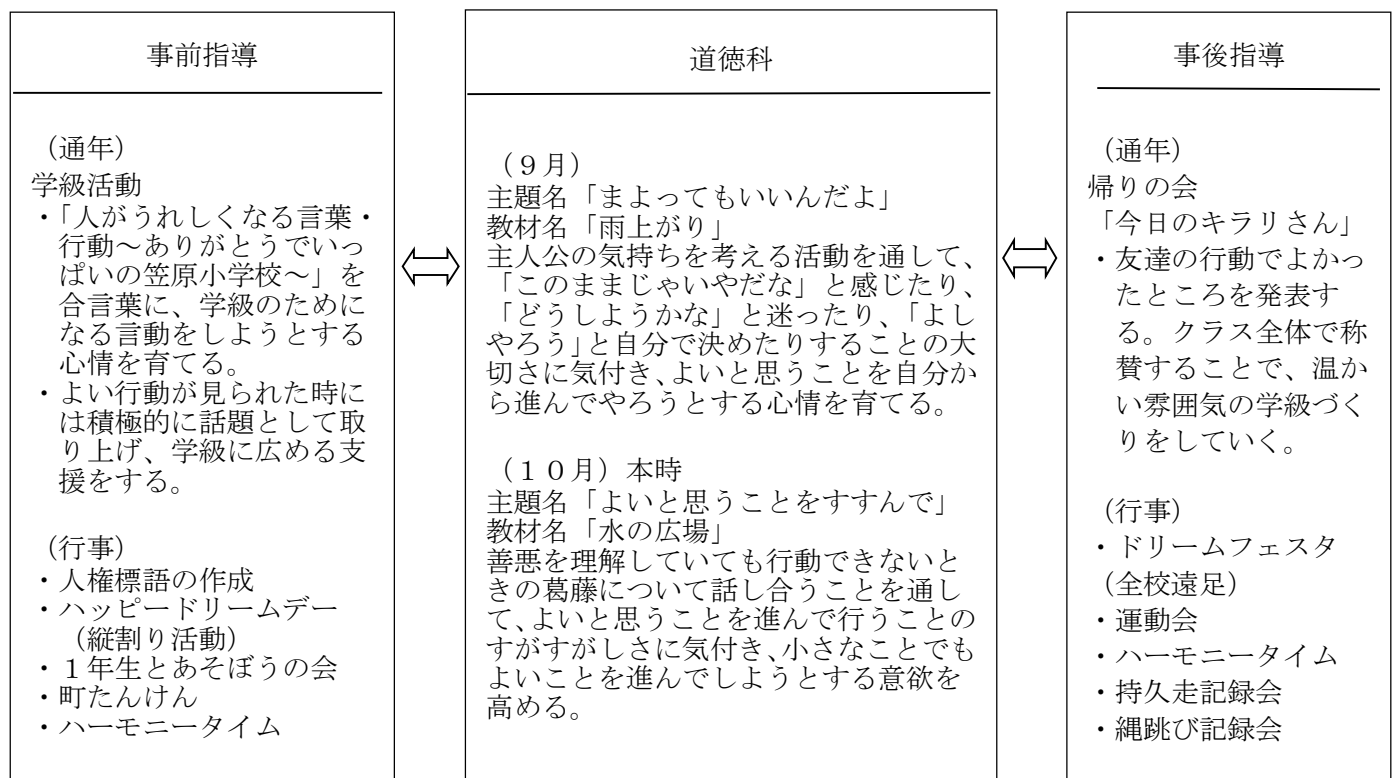
本教材は、公園の水の広場が古くなって危ないので使用禁止になっていたが、みらいとあすかよりも少し大きい子が中に入って遊んでおり、どのように行動したらよいか迷うみらいの葛藤を描いた内容である。注意することをためらうみらいと、進んで注意しようとするあすかが対比して描かれており、みらいの迷う気持ちや、その理由を考えることを通して、ねらいに迫るものである。子どもが善悪の判断で迷うことは日常生活の中にはいくらかでもあり、いつも正しい判断ができるとも限らない。「してはいけないこと」と分かっても行動に移せないみらいの迷いに共感しながら、こうしたときはどうすればよいか考え、正しい判断をしようとする意欲を養いたい。また、「きけん」を知らせる看板の存在を通して、きまりとは安全を守るためにあることを再度確認し、自信をもって正しい判断と行動をしようとする意欲を育てられるように授業を展開していきたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動、主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間(分)
導入	1 事前アンケートをもとに迷いが生じたときの事例を提示し、どのような心情になるか考える。	①廊下を走っている人がいた。 ・ぶつかったら危ない。 ・注意しようとしたけれど、もう遠くに行ってしまった。 ②遊んではいけない場所で遊んでいる人がいた。 ・自分に関係ない。 ・反抗されたら怖い。	・具体的な事例を挙げることで、これまでの生活を振り返り、迷いが生じる場面があることに共感させる。	4
	2 本時の課題を知る。 よいこととわかっているのに まよってしまうとき、どんな気持ちをもてばよいだろう。			1
展開	3 教材の条件・状況を知り、「水の広場」を読む。 【登場人物】みらい（主人公）、あすか 【条件・状況】 公園の水の広場は古くなって危ないので使用禁止になっていたが、みらいとあすかよりも少し大きい子たちが中に入って遊んでいた。あすかは進んで注意しようとするが、みらいは注意することをためらって考え込んでしまう。		・登場人物、条件、状況についておさえる。 ・自分もこの場にいるような気持ちで聞くように伝える。	3
	4 学習課題について話し合う。 (1) みらいさんはなぜ考え込んでしまったのでしょうか。 【分析】	・少し大きな子たちだから。 ・注意するのが怖いから。 ・怪我をしてしまっても自分のせいだから。 ・看板に気が付いてないだけかもしれないから。	・みらいとあすかよりも「少し大きい子たち」であることをおさえる。(年上、複数人)	2
展開	① (2) 自分がこの場にいたらどうしますか。 【投影】【共感】	【注意する】 ・そのままにしたら危ないから。 ・他の子が真似してしまうかもしれないから。 【注意しない】 ・怒られたら怖いから。 ・楽しそうに遊んでいるから。	・心情メーターを活用し、自分の考えを共有できるように可視化する。 ・周囲の回答を元に自分の考えを変えることがないように、全員が操作を終えるまで共有画面は消しておく。 ・それぞれの気持ちを発表させ、共感させる。	15
	② 自分より少し大きな子たちだけれど、躊躇せず注意することができますか。 ③ よくないと思った行動をそのままにするとどんな気持ちになりますか。 ④ よい行動をするとどんな気持ちになりますか。 ⑤ 注意がどうしてもできない時、何かできることはありますか。	・注意できる。 ・やっぱり怖くなってできないかもしれない。 ・危ないからなんとかしたい。 ・もやもやする。 ・このままでいいのかな。 ・心配だな。 ・すっきりする。 ・すがすがしい気持ちになる。 ・ほっとする。 ・お家の人に相談する。 ・周りの人に知らせる。	・注意できない児童が悪いという雰囲気にならないように、誰にでも迷いや弱さがあることに共感させる。 ・わかっている正しい行動ができなくても、何か他にできることがないか考えさせる。	
	(3) よいと思ったことをするには、どんな気持ちが必要でしょうか。 【深化】	・正しいと信じる。 ・小さなことでも何かできることはないか考える。 ・勇気を出す。	・小グループでの話し合いを通して、どのような心が必要になるか考える。 ☆「よいことと悪いこと」の判断に迷う心について、多面的・多角的に考え、弱さを認め、それを乗り越えることについて考えている。 【発言・ワークシート】	10

終 末	5 学習を振り返り、自己を見つめる。	・よくないなと思った時、迷うかもしれないけれど正しい行動ができるようにしたい。 ・注意できなくても、自分にできることがないか考えられるようにしたい。 ・勇気を出して行動してみたい。 ・よいこととよくないことを、しっかり見極めたい。 ・正しいと思ったことは自信をもって行動したい。 ・正しい行動ができたときの、すがすがしい気持ちを思い出したい。	☆よいと思ったことを進んで行うことができた時のすがすがしさを思い起し、小さなことでも進んでしようとするについて考えを深めている。 【発言・ワークシート】 ・善悪の判断について、児童一人一人が自分自身の生活経験と重ねながら、今後の生き方について考えられるようにする。 ・友達の発表を聞き、多様な考えに触れさせることで、余韻を持たせる。	7
	6 友達の振り返りを聞く。			3

5 他の教育活動との関連



家庭との連携

「笠原小よい子の約束」や「夏休みの過ごし方」を家庭に配信し共有することで、正しい行動について家庭でも話し合ってもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

「よいことと悪いこと」の判断に迷う心について、多面的・多角的に考え、弱さを認め、それを乗り越えることについて考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

よいと思ったことを進んで行うことができた時のすがすがしさを思い起し、小さなことでも進んでしようとするについて自分との関わりで考えを深めている。

7 板書計画

